# 参加者募集

## 男のセカンドライフ大学校

### 「声を出してたのしく健康に ～クリスマスソングを歌おう～」

姿勢と呼吸、発声、発音などのボイストレーニングを体験し、体を使って声を出す気持ちよさを味わいましょう！
「アメイジンググレイス」などのおなじみの曲や、クリスマスにちなんだゴスペルを参加者全員で歌います。
「歌うことが大好き」「昔グリークラブだった」「カラオケがうまくなりたい」「歌には自信はないけれど仲間と歌ってみたい」「リズムに乗るのは苦手だけど楽しみたい」・・・
どんな方でも大丈夫です！

●日　時：12 月 20 日（日）　13：30 ～ 16：30
●場　所：港南中央地域ケアプラザ　多目的ホール
●対　象：おおむね 55 歳以上の男性（同伴の女性も可）
●申　込：11 月 1 日より受付。先着 50 名。①氏名 ②〒・住所 ③ＴＥＬ ④年齢をＴＥＬ・ＦＡＸ・Ｅメール（応募者多数の場合は抽選）
●申込・問合先：港南区社会福祉協議会（下記参照）

【講師プロフィール：秋葉隆行氏】
横浜生まれ。ジャズシンガーとして活動する他、YAMAHA PMS 講師 / 昭和音大講師としても活躍。桂台地域ケアプラザや新山下地域ケアプラザでも地域のゴスペルグループの指導をつとめる。

## 第１０回港南区ボランティアフェスティバル ～きっと見つかる、何かが～

身近な地域で活動しているボランティアグループが大集合。活動紹介、手作り品の販売、舞台発表等。見て、さわって、体験し、自分探しをしてみませんか。
お楽しみ抽選会もあるよ！

●日　時：11 月 15 日（日）　12：00 ～ 15：30
●場　所：南台小学校アリーナ
（地下鉄港南中央下車徒歩 7 分／江ノ電バスこまわりくん上大岡発 南台小学校下車徒歩 1 分）
●申　込：直接会場へ
●問合先：港南区社会福祉協議会（下記参照）

## 精神保健ボランティア講座

精神障害をもつ方も安心して地域で過ごすために何ができるか・・・一緒に考えませんか？

●日　時：11 月 10・17・24 日（全て火曜日）
13：30 ～ 15：30　全 3 回
●場　所：港南区福祉保健活動拠点
●参加費：無料
●申　込：事前にＴＥＬ。先着 30 名。
●申込・問合先：港南区社会福祉協議会（下記参照）

## 寄席　ふれあいショップ「あおぞら」寄席

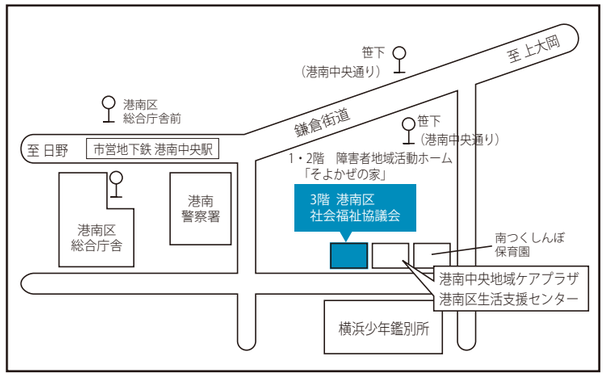
好評につき今年も開催します。
コーヒーを飲みながら落語を楽しみませんか？
ゲストはさえずり亭ひばりさんのお母さんです。
奮ってご参加ください。

●日時：11 月 7 日（土）　13：00 ～ 14：00　●ゲスト：幸福亭　明楽（こうふくてい めいらく）
●場所：ふれあいショップあおぞら　●参加費：500 円（ケーキセット代として）　●申込：事前にＴＥＬ。先着 30 名。
●申込・問合先：ふれあいショップあおぞら（TEL 847－5122）


社会福祉法人
横浜市港南区社会福祉協議会
〒233-0003　港南区港南 4-2-8　3 階
港南区福祉保健活動拠点内
TEL：045-841-0256　FAX：045-846-4117
URL：http://www.kounan-shakyo.jp/
E-mail：info@kounan-shakyo.jp



港南区社会福祉協議会広報委員
伊藤　正　村田増江　横川朱実　小谷洋子　片伯部富
齋藤新二　渡辺愼作　守　悦子



社協だより
# こうなん 58
■発行 / 社会福祉法人　横浜市港南区社会福祉協議会　■発行責任者 / 清水　鐵夫　■発行日 / 平成 21 年 10 月　横浜市港南区連合町内会　平成 21 年度　承認第 5 号

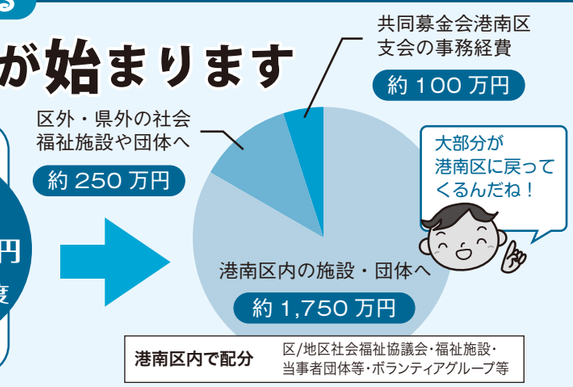

港南のまちで、あなたのお金がいきている

## 赤い羽根の共同募金が始まります

### 共同募金のしくみ

港南区内で集まった募金はいったん神奈川県共同募金会に送金された後、次のように配分されます。

募金総額
約 2,100 万円
※平成 20 年度




港南区に戻ってきた募金は、地域の身近な活動の中で大切に使われます
その中のほんの一部をご紹介します

### ～永野地区社会福祉協議会～ 地域で子育て応援

丸山台小学校隣の籠森公園で、月一回、就学前の親子が自由に来て遊べる「公園遊び」サポートをしています。公園の中にいろいろな仕掛けをして、遊びの見守りや、若いお母さんたちに声かけして楽しい時間を過ごしています。段ボールの車や牛乳パックで作ったブロック、鈴のついた布で遊ぶ姿は、生き生きとして素敵な笑顔を見せてくれます。

毎月 30 組以上の親子でにぎわいます。

母親同士の情報交換の場にも

### ～日野第一地区社会福祉協議会～ お年寄りがいきいき　高齢者サロン「五楽会」

変わりお手玉作り

高齢になっても家に閉じこもらず、毎月 5 日と 25 日に楽しく過ごしていただこうというのが名前の由来です。カラオケや囲碁将棋、輪投げやダーツの他、参加者が先生になっての小物作りと、メニューは盛りだくさん。毎回ボランティアを含め 20 ～ 30 名が集まります。10 時にハマちゃん体操でスタート。11 時半頃まで好きなことを楽しんだら、机を並べ替えてお茶をいただきながらのおしゃべりでしめくくります。この時間を利用して、応援参加のケアプラザ職員から、高齢者に役立つ話を伺ったりもします。足の不自由な方には車の送迎もあります。

日野第一地区では、「ふれあいささえあいのまち」をモットーに、お年寄りがいきいきと過ごしていただける場所としての五楽会を、ますます発展させていきたいと考えています。

### 楽しかったみかん狩り

港南区障害者団体連絡会
ふれあいバスハイク

「もう 5 つも食べたよ！」、「私は 8 つ！」。昨年の秋、富士山の麓「小坂みかん園」に声が響きました。ボランティア、参加者とも最初は緊張していましたが、元気な声と笑顔ですぐに打ち解け、「ありがとう！」と感謝の言葉が飛び交った一日。

参加人数も多く、団体の財源も限られているため、助成金や福祉バス（横浜市社会福祉協議会による障害者の外出・行楽支援のためのバス）などを活用しながらの実施となりましたが、普段の活動だけでなく、他の団体や地域の人たちとふれあうことでの学びや喜びはとても大きく、バスハイクをきっかけとした交流の輪も広がっています。

どんな事業にも、会場費・保険代・チラシの印刷代など様々な経費がかかります。各団体は、参加費を集めたり、バザーで収益を上げたり、と色々な工夫をしていますが、それだけでは足りない部分に、共同募金の配分金が活用されています。

港南のまちで、あなたのお金がいきている

# 赤い羽根の募金活動を支える人たちをご紹介します

## 街頭募金　（10 月）

雨の日も風の日も・・・

**港南区作業所連絡会**では、毎年ＪＲ港南台駅と地下鉄上永谷駅で、各団体の障害のあるメンバーと職員が組になり交代で募金活動を行っています。「毎年決まった顔の方、小さいお子さんとお母さん、買い物客や近所の方が募金してくれます」と地域活動支援センター Honey Bee の職員さん。車イスのメンバーもいるので、駐車場やトイレに苦労するそうです。でも「使い道がはっきりしているので、募金をした方も役に立っているという思いがあるのか『ご苦労さま』と言ってくれる人が多いのがうれしい」とのことです。

人気のドラえもんバッヂ。
区社協窓口限定のマリノスバッヂも（500 円以上の寄付）

**港南区民生委員児童委員協議会**は、毎年 5 人一組で立ちます。昨年も参加した民生委員さんの一人は「電車が着くたび改札口に移動。主婦や小学生、『ドラえもんバッチをつけてください』と子ども連れのお母さんたちが募金してくれます。ご近所の方が通った時には声をかける。顔を知っている人が立つのもチャンスかな」とお話しくださいました。

## 戸別募金（10 ～ 12 月）

地域でコツコツ・・・

**戸別募金**とは、自治会・町内会の役員さんが一件一件家を回って集める方法です。（地域によって方法は異なります）ある町内会の役員さんによると「お年寄りや一人暮らしの人には負担が大きいのでは、と親切のつもりで『無理しないで払える金額で』と言うと、『馬鹿にしないで。地域に一緒に住んでいるの、払うのは当たり前』と言って出す人もいれば、『なんで出さなくてはいけないのだ。何に使っているのか説明して』と言われて困ってしまうこともあります」。

「募金の使い道や共同募金の仕組みを分かりやすく説明する責任があると思う。福祉には国がもっと多くの公的資金をかければいいことですが、それだけでなく、社会福祉とは、特別の人が特別のことをしているわけでなく、本来はみんなで支えあっていくこと。『助け合い』とは、まず自分の住む場所から『気をかけ』『手をかけ』『言葉をかけ』することから始まるのではないか」と役員のお一人はお話しくださいました。

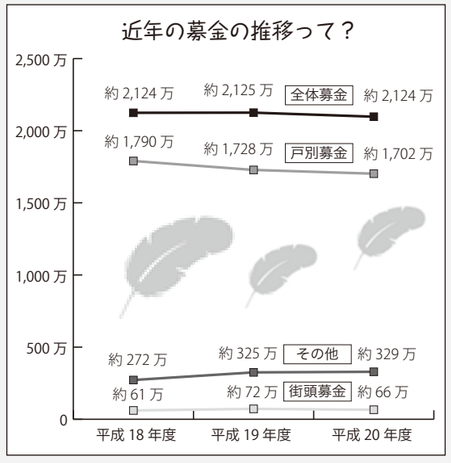
**港南区では、募金実績の約 8 割が戸別募金であることを知っていましたか？**

## 共同募金Ｑ＆Ａ

**募金の方法にはどんなものがあるの？**
街頭募金・戸別募金の他にも、法人募金・学校募金・職域募金などがあります。募金は決して強制ではありません。

**いつから始まったの？**
終戦後の昭和 22 年、ＧＨＱの指示により「社会事業共同募金中央委員会」が設立。その当時から国民の助け合い運動の方法の一つとして始まりました。

**戸別募金はどこで行われているの？**
港南区内の約 96,500 世帯のうち、主に、自治会・町内会に加入している約 70,500 世帯にご協力いただいています。




少しづつ減ってはいますが、それでも不景気にも関わらず多くの募金が寄せられています。ありがとうございます。

# 障害のある人もない人も・・・日々の暮らしも災害時も・・・

## ●小さな‘ゆず’の物語　～ぬくもりの家とボランティアさん～

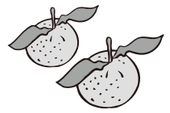
川沿いに建つ一軒家『ぬくもりの家』では、今日も様々なジャムが大鍋で作られています。皮を刻み、果肉を裏ごし、慎重に煮込んでいきます。中でも季節限定で大好評なのが『ゆずジャム』。材料は、ぬくもりの家で歌のレッスンをしてくださっている松原さんをはじめ、地域の方から寄付された無農薬のゆずだけを使います。

明るく気さくな松原先生＆ゆず

松原さんは 14 ～ 15 年もの間、メンバーさんと歌やおしゃべりを通して交流を深めてきました。そんな松原さんが丹精込めて育てたゆずは、来年の寒い頃にはとろとろのゆずジャムとなって、ぬくもりの家の看板商品になることでしょう。

『安心で美味しい』ジャムを皆さんも味わってみてください。

**地域活動支援センター　ぬくもりの家**
精神に障害がある人が地域の中で自分らしく生活できるよう様々なプログラムを行っています。
連絡先：港南 4-11-22　TEL 841-5649



保存料や水分は加えないオール手作り

## ●避難場所で知的障害や自閉症の人と一緒になったら？　～大久保最戸地区～

被災時、避難場所で気になる行動をしている人がいたらどうしたらいいのでしょう？実は、障害のある人も、避難場所でみなさんと一緒に過ごせるか不安なのです。『セイフティーネットプロジェクト横浜』の出前講座では、ちょっとした接し方の工夫などを、当事者の家族や支援者の立場からお伝えしています。

参加された皆さんより質問や励ましをいただきました

港南区初の出前講座は、7 月 24 日大久保町内会館で行われました。「町で自分の頭を叩いている人がいたら？」や「避難場所でも特別な配慮が必要？」などの質問が寄せられました。「障害があるから常に助けてもらうのではなく、物資を運んだり、得意なことを生かして助け合うこともできる。講座を通じて地域の方々に伝えられる場が広がれば」と家族でもある講師の早坂さんは話していました。

「ここで待って」よりも「この座布団に座って」の方が分かりやすい

**セイフティーネットプロジェクト横浜**
障害当事者やその家族で構成。障害のある人が地域で安心して暮らしていけるよう、連携（セイフティーネット）を構築するために、出前講座の他、黄色と緑のバンダナ、コミュニケーションボード等の普及啓発活動を行っています。

災害用コミュニケーションボード▶

## ●地域防災拠点　立ち上げ訓練　～日野南地区～

「テント設営に男性 8 名！」「炊き出しを手伝って」リーダーたちの呼びかけに応じて人が集まり、的確な指示のもと活動が始まります。8 月 29 日、炎天下の日野南小学校で行われた地域防災拠点（以下「拠点」）立ち上げ訓練の風景です。取り仕切るのは 28 名の運営委員。災害時に協力を表明している 340 名の災害協力員たちと連携し、約 2 時間で拠点を立ち上げるという初の実地訓練でした。

「初めてにしてはまあまあ。拠点の立ち上げももちろん、ここに避難してくるまでの隣近所の助け合いが大切」と運営委員長の井手さん。9 月には、近隣で声をかけ合い実際に避難してくる訓練も実施。「次は夜間の訓練なども行いたい」。災害への備えには終わりがありません。

車いすの通路を確保してマットをしく

支援者を表す緑のバンダナをつけて活動

**地域防災拠点**
市立の小中学校が震災時避難場所に指定され、機材や食糧の備蓄や、防災訓練など行います。地域・学校・区役所で構成された「地域防災拠点運営委員会」が運営を行います。